年度 2007	学期 前期	曜日･校時 月曜日･2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義／(Colloquium)			
対象年次 1年次		講義形態 講義･講演	教室 403･中部講堂	
対象学生(クラス等) Ld Ed			科目分類 共通基礎科目	

担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー

石松隆和/Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ:ishi@net.nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/オフィスアワー:月午後
片岡千賀之/Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ: kataoka@net.nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部 /オフィスアワー:月午後
井田洋子/Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ: smile@net.nagasaki-u.ac.jp/研究室:経済学部 /オフィスアワー: E メールで連絡を受けた後、日時を決定する。

担当教員(オムニバス科目等)

授業のねらい/授業方法（学習指導法）/授業到達目標

授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求･学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち，平和を支え，社会に貢献する人材となることを期待する。

授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い，特別講演は学長，理事，名誉教授などが担当する。講義は，「長崎」「平和」「海洋と文化」の分野についてそれぞれ3回ずつ講義する。

授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ，ものの見方・考え方の多様性、課題探求･学問の面白さを知る。講義により，学生生活の場である長崎の歴史，文化，自然を理解し，長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し，世界を理解する。被爆地長崎を通して平和について学び，平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。さらに，古来より，大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。アジアとの関係を含め，長崎の歴史，文化，平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)

授業内容(概要)

長崎： 長崎市域、特に斜面地域で暮らす人々に着目し、誰もが住み慣れたところで安心して暮らせるように、どのような工夫やなされているかを紹介し、これからの地域社会のあり方を考える。

第１回 あなたの身近に暮らす人々がおかれている現状について
第２回 高齢者や障害者を通して見える人権・平等・生きがい
第３回 人々の生活を支える科学技術

平和：

平和とは少なくとも戦争がない状態をさすという認識を出発点として、これまでの人類の平和構築に向けての歩みを歴史的に検証する。具体的には、戦争違法化の歴史と理論（第１回)、平和に対する国際社会および日本のこれまでの姿勢や取り組み方、さらには、将来に向けて、われわれ一人ひとりに突きつけられている課題（第２回および第３回）について論じる。

海洋と文化:

第１回:長崎における資本制漁業の発展と魚市場の近代化
第２回：戦後の長崎の漁業と魚市場
第３回：東シナ海・黄海における日本、中国、韓国の漁業関係

第1回	4月16日	特別講演Ⅰ	齋藤 寛	(学 長)
第2回	4月23日	長 崎	石松隆和	(工学部)
第3回	5月 7日	長 崎	石松隆和	(工学部)
第4回	5月14日	長 崎	石松隆和	(工学部)
第5回	5月21日	特別講演Ⅱ	岩永 浩	(名誉教授)
第6回	5月28日	特別講演Ⅲ	佐藤俊英	(名誉教授)
第7回	6月 4日	海洋と文化	片岡千賀之	(水産学部)
第8回	6月11日	海洋と文化	片岡千賀之	(水産学部)
第9回	6月18日	海洋と文化	片岡千賀之	(水産学部)
第10回	6月25日	特別講演Ⅳ	石原 忠	(名誉教授)
第11回	7月 2日	特別講演Ⅴ	今田 正	(名誉教授)
第12回	7月 9日	平 和	井田洋子	(教育学部)
第13回	7月23日	平 和	井田洋子	(教育学部)
第14回	7月30日	平 和	井田洋子	(教育学部)
第15回	8月 6日	特別講演Ⅵ	福永博俊	(教育担当理事)

キーワード

長崎：地域の暮らし、高齢者
平和：個人、国家、武力による介入、人権
海洋と文化：漁業の歴史、海洋秩序

教科書･教材･参考書	長崎：特に指定しない。 平和：特に指定しない。 海洋と文化：毎回、資料を配付する。
成績評価の方法･基準等	長崎30点、平和30点、海洋と文化30点、特別講演10点の配点とする。 長崎：レポート 平和：レポート 海洋と文化：レポート
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ/学習･教育目標	
備考(準備学習等)	